

## 稲賀 繁美

(昭和54年 教養学部卒)

### 時代の閉塞と、京都東大会への期待

京都に設置されて、先年創立30周年をむかえた国際日本文化研究センターを、2021年に早期退職した。大学共同利用研を構成する唯一の人文系の文科省直属の研究所であり、京都大学からも独立した施設である。だが法人化以降の行政改革に伴い、その社会的な地位は地盤沈下を余儀なくされた。創立に関わった有力政治家や初代名物所長、さらには創設メンバーの物故とともに、京都においてもその社会的影響力が、創設当初と比較して、減退していることは否定できまい。その背景には、国立大学すべてに関わることだが、行政改革に伴う基礎体力の喪失が無視できない。毎年1.0-1.6%の予算削減、プロジェクト中心の競走資金獲得による目先に囚われた研究の優先、それと連動する職員の減員、教員の新規採用の予算的不如意、任期付き研究員制度による所員の研究環境の急速な悪化。コロナ禍などの外因による国際交流事業の停滞、その結果として、外部査定による機関評価の悪化、優秀な後継者人材確保の困難…と、日本の研究者集団すべてを襲っている悪循環の苦境が、この小さな研究施設でも、縮小・濃縮されており、零細組織がこの趨勢に抗することは難しい。

考えるところあって早期退職のうえ、京都市内でも独創的な理念と構想で定評のある私立大学に移籍し、新学部設立に関与させていた。だがここでも、監督官庁からの様々な指導や教務・<sup>フ・イ・ク</sup>教学上の縛りがあまりに煩雑であり、有意の教員たちが、現場対応の多忙に疲弊している危機的な実態に直面することとなった。時代の閉塞感は、とりわけ日本で内輪に閉じた教育を受けてきた学生たちに、如実に顕現する。近隣諸国を始めとする留学生たちの発止とした表情や、未来への期待、進取の気性と落差には、愕然とする。社会の劣化が教育の場でその症例を晒している。京都東大会構成員の叡智と経験から学べるなら幸いである。

## 目次

- 京都東大会 20周年を迎えて  
京都東大会会長 太田譲二
- 京都東大会 20周年に寄せて  
東京大学地域同窓会連合会顧問 岡崎一夫様  
関西東大会代表幹事 河野裕亮様  
奈良東大会会長 木部義人様
- 京都東大会 20周年記念誌発行にあたって  
幹事会代表幹事 岩崎 勉
- 京都東大会の歩み
- 寺社仏閣の見学会等の行事の一覧
- 会員からの自由寄稿  
「私と京都東大会」 副題 東京大学って何
- 会 則  
2018年(平成30年)9月
- 京都東大会旗
- 東大の応援歌  
ただひとつ・大空と
- 写真集
- 幹事紹介
- 編集後記  
事務局長幹事 田中 伸

## 京都東大会20周年記念誌

発行日 2022年(令和4年)9月29日  
責任者 京都東大会 幹事会  
代表幹事岩崎勉/事務局長 田中伸  
連絡先 〒604-0875  
京都市中京区車屋町通丸太町下る砂金町403番地  
田丸産業ビル4階 田中伸法律事務所内  
TEL:075-221-6656  
e-mail: tanashin@gray.plala.or.jp

印刷・制作 サンケイデザイン株式会社

本誌掲載の記事・大学ロゴ・写真などの無断転載・複製を禁止します。